

佐渡生きもの語り 作品集 2011

おいしいよ

食べてほしいな

佐渡の米

みんなが食べれば

トキもよろこぶ

(二〇一一年グランプリ作品)



「生きものの語り」って何？

平成20年、一度は絶滅したはずの朱鷺が佐渡の空に舞いました。これを機に佐渡では朱鷺の餌場である田んぼを生きものいっぱいしよう！と、農薬や化学肥料を極力減らし、生きものたちの命を大切にしたら環境との共生を目指す「生きものを育む農法」を取り入れました。私たちの最初の目的は「朱鷺の餌」を確保することでしたが、田んぼの生きものたちと身近に接していく（生きもの調査など）うちに、田んぼには実に様々な生きものたちが命の営みを繰り返しながら、懸命に生きている姿を目の当たりにします。そしてこの生きものたちの力を借りる事によって、より豊かな自然環境の創造やお米づくりができることを教えてもらったのです。

佐渡市では「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を全島に広げ、より安心して美味しく食べてもらえる佐渡米づくりに奮闘しています。毎年6月第2週と8月第1週の日曜日は「全島一斉生きもの調査の日」として農家はもちろんのこと、地域の子供たちや消費者も一緒になって生きものたちと向き合うとしています。「生きもの語り」とはそんな生きものたちへの〈まなざし〉を文章や川柳などで表現したものです。

ごゆっくりご覧下さい。

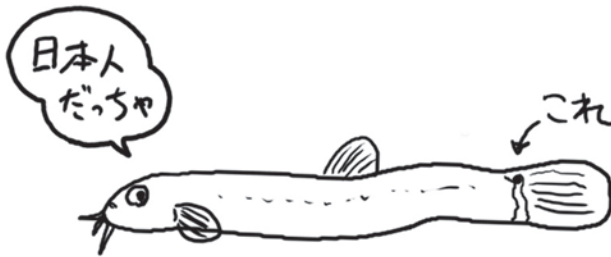
生きもの語り俳句・川柳 — 田んぼ編 —

調査の日いつも雨だねカエルくん

大雨も苦にせぬ佐渡の生きもの調査

よく見ればドジョウの尾ビレに大和斑

コオイムシオオコオイムシコオイムシ



コロコロと佐渡の田石はモノアラガイ

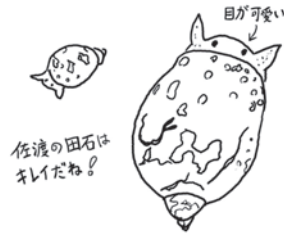
はるばるとなびき招かれ来て見れば草木も鳥も美しき島

甲斐あってトキ既に多し山の田に（カイ…谷の意味も）

地味増して笑み溢るれば富となり

（チミ、エミ、トミサンミ一体の喜び）

目立たないシヤジクモさえも意味があり



昨年のコナギなつかし今年の田

貧乏も食べてみれば味があり

(貧乏草…ヒメジヨオン、ハルジヨオン)

中干しで住みかを求めて逃げまどう

すくい網ヤゴ追いかけてにぎり水

クサネムも大きくなればダイエツト草

田んぼの中のぞいてみれば生きものの語り

ヒエ、コナギ、イボグサ、オモダカ、クログワイ 無農薬は雑草の園なり

食べて、食べられ 田んぼの世界 一人で生けぬ 自然の世界

ヘイの向こうのホリエモン 生きもの調査で人生出直せ

ハラに空気を貯めこんでキラキラ光る

ガムシのお腹ボクのお腹と似て非なり



勉強の部屋の隣でガマの声

雨の中共に生きもの追いかけて

手を入れてそこにそーと玉じゃくし

先生と共に追いかけて生きものを

オオバコが正しい名前カエルつ葉（ぱ）

幼い息子（あおがえる） 思い出す

梅雨寒に 鳴く鳴く蛙 青き道

つばめ舞う 空をあおぎて 笑みこぼす

蛍狩り 光がおどる 島の夏

水田に 足踏み入れば たのし運動会



さまざまな生きもの見えてたのしい農業

田圃には見た事なかった虫もいた

コオイムシみんなまとめてゲンゴロ

生きだらけこれじゃ田んぼに入れない（生き…生きもの）

クログワイ今年もあなたにやられちゃった

穂植時にサギと見ればアラトキだ！

新穂川 お魚探すと子供つれ

熊野川 お魚探すと目先かえ

パーお魚いないネーお魚いないネー

トキのためそれだけでない無農薬

ムシ生かす 無農薬こそ ヒト生かす

ムシたちが 環境示す 道しるべ

マツモムシ 背泳ぎ一番 チクチクし

ピーマンを ザブトンに使う アマガエル

ロープはり 子育てしじゅうから 応援す



昆虫の世界の王様 イナゴだよ

ムシの王子は イナゴだよ (蝗Ⅱイナゴ)

中干しで オタマジャクシは ムジナの餌

ウシガエル オタマジャクシも 馬鹿でかい

子おい虫 今日の中は 卵なし



小雨降る 田んぼで 生きもの講習会

ゲンゴロウとわがやの屋号にさもにたり

トンボとり 子供がはしゃぐとりにくそう

青ガエル 明日は 天気が良いかなあ

血吸ビル 人の血吸って さぞ甘かろう

田んぼはねいろんな仲間の住みかだよ

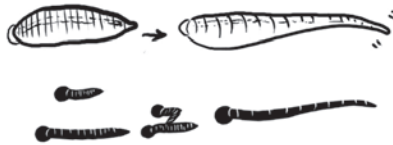
生きものを見つけるが上手くすくえない

ヒルさんは休みの時は丸くなり動く時は長くなり

カエルでもなぜ登れぬかとくやしそう

子供の時は土を食べ親はいいね草を食べて

どちが頭？



雨がえるどこまでかえる 雨降りに

たまじゃくしよ 大人と一緒に遊ぼうね

カエルの姿ケロケロ合唱 子供の頃がなつかしい

仲良しおたまじゃくし 大地では別行動

赤とんぼの幼虫 早く大きく大空へ

野いちごや幼き頃に思いふけ

かえるさん生きもの調査で友達に

雨の日で静かにいたのに大慌て

生きものは環境保護で増えていく

調査票○で心も○くなる

光ってるのがガムシ 泳ぎがうまいのがゲンゴロウ

たくさん集まったね草花標本にしたら何m

こんどは食べてみたいな田んぼの草たち

いきなり驚かせてごめんね みんなこんど会ったら友達だね

あの人、この人、あの土地、この土地、あの時代、この時代

たくさんたくさん広がるね 生きもの調査、生きもの語り

すごいねこのしまあのしま全てイトミミズなんだねありがとう

生きもの調査 生命の宝庫 田んぼを知る

佐渡の田んぼ ドジョウも 居よいよ 住みよいよ

虫だって 生きているんだ 大切なんだ！



人がみな耕せば休耕田も立派なビオトープ

はじめて見た田んぼの小さな守り人

田の虫の多さが佐渡の豊かさよ

梅雨時期に生き生きと鳴くかえるたち

雨模様生き生きとする棚田かな

草花や 田苗が日々と 守るかな

農薬も 環境変わる 今昔

カッパ着て 田んぼの草取り 思い出す

雨がエルオ前ニ 苦勞ハアルノカナ

コガネムシ 金の分けまえ こちらにも

ドジョウさん トキより先に
いただけり

ウシガエルの声に負けるな
ホトトギス

大漁のモノアラガイに
心洗われる

田の中でゲンゴロウと
鬼ごっこ

アミつかいとらえた虫は
ドロだった

政治家よ生物も人間も生きる喜びを与えよ

水田に生きもの達が帰ってきた

何て名だ？網より早く逃げる虫

15分みんながどじょう見つけたよ

田の草を図鑑見るより口で知る

花粉出す前に食べよう
セイタカアワダチソウ

おひたしの隠し味は
ヒルのダシ



梅雨の晴れ間に野の草つんで
天ぷら揚げるいと旨し！



農薬でトンボが消えた風景を
取り戻そうと佐渡の百姓



無い頭ひねってむなし
生きもの語り人に笑われ
虫に笑われ

真剣に読んだつもり生きもの語り人に笑われ自信喪失

雑草食べて農薬代と食費削減

生きもの調査裸足でどじょう追いかけて童心にかえる

大勢で虫をさがしもおもしろい

デロを見て地域に学ぶ撃退法

震災後すぐに働く微生物

シヤジグモが証明している 無農薬

佐渡に住む生き物探し 楽しいな

生きものよみんな来い来い 佐渡の島

佐渡に住む生き物たちと仲良くね

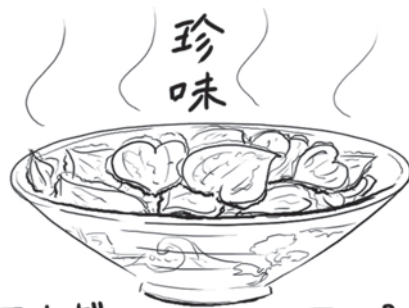
生き物と共に喜び分かち合う

コナギ・セリ ホントにうまい？うまかった

我が田圃なぜかおたまが大はしやぎ

中干しを生き物たちにゆるくする

田の草も食べてみればうまかった



コナギ

天ぷら

凶鑑ではわかったつもり草や虫

ホタル族源氏か○○どちらかな？

生きもの調査手に残る田んぼにおいて

天ぷらにすればほとんど食べられる

野草も良いけど私はトンカツ

食すれば興味もわくよ野草の事

欧米かニホンザリガニ見てみたい！

集落の太鼓叩いてタイコウチ

マツモムシ初めて見たよ佐渡の田で

タウコギを捜して田んぼ汗をかく



タイコウチ

雑草を選んでテンブラ晩酌の友

アシカキのランナーと競争する菅任期

稲体にめぐらすクモの糸密度知らべてカメムシ防除

わかったよ生きもの調べでくえる草

生きもの語りやっと気付いたね僕のこと

応援するよみんなの笑顔（佐渡市在住生きもの一同）

田に入りわれ童心に返りけり

生きものと人をつなげる 田のちから

田圃には意外といっぱい 住んでいる

田圃は多くの生きもの 活躍場所

雑草の天ぷら食べてすこやかにけり

雑草も食べてみれば意識変わり

「雑草」と嫌うなわれも天ぷらに役にたつ

コオイムシアメンボをうまそうに食べている

草むらをすくえばうれしコオイムシ

コオイムシつぶつぶなくて良かったな



コオイムシ

オニヤンマ 並んで誕生「おめでとう」

すいそうで 飼ってみたいな マツモムシ

雑草は 油で揚げたら 珍味なり

雑草も フライにすると よろこばれ

家の前 トキがエサトル 田んぼかな

朝起きて孫と見に行くトキのむれ

走りグモつかまえるのに骨折れる

虫の数多くて頭痛しかな

生かじり雄弁、合弁、双子、単子昔はただ愛でるだけなり

昔よりなに良くなったカエルくんアンタ達には解るはず

はじめての草の味に舌つづみ

多数のお客にびっくりにげる虫

どんな味おっかなびっくり草食べる

トキの卵かえらないのも農薬のせい？

都会より空気の悪い田舎なの？

ミツバチをどこへ逃がせばいいの？

我々人間はどこへ逃げればいいの？

フナ、メダカ帰って来いよ 佐渡の川

自家消費だけは農薬なし 天日干し 本当にそれでいいの？ 農家さん

生産量を増やす農薬？ 殺人兵器と一緒じゃない

田水は体温の気持ち良さ。 用水路の水温の冷たさに驚く



土水路や小川が涸れて困ってるんだ(ト)



生きものあわせあ〜いいなくそんなにとれたのうらやましい

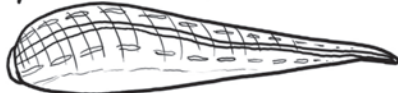
ウマビル10cm 私の足はまずくて助かった

葉の形つき方毛の有無で違いを覚えて多様性

トキ2羽が餌取り励む小春日和

雨ガエル今日も元気に飛び帰る

ウマビル(緑色)



チヌイビル(茶色)



何もかも忘れて田の生きものを追い求める

幼き日のドジョウ取りを思い出す

生きものはたくさんいて知識のなさを思い知る

ハダシで田に入りヒルにかまれ血を流したのがなつかしい

二回もますます満ちた生きものの語り

田圃も共存しよう自然界

植草も創意工夫で食物に

政治家も田んぼのようにバランスを

刈畦やはて菜ばかりを見つけけり

さはあれどいぐは刈られてなかりけり

ヤノネグサ多いばかりに目残され

ひげ面が野花かかえて戻ってくる

雑草も食べ方次第でおいしいよ

雑草食べ お腹だいじょうぶ

田んぼみちカエルの横断きをつけて

虫たちへ 田んぼのリフォーム 江を作る

虫たちにゴメンと言って 水落とす

秋代（アキシロ）と竹ぼうき掃除で 虫笑顔

葉まく生きもの減って 米増える

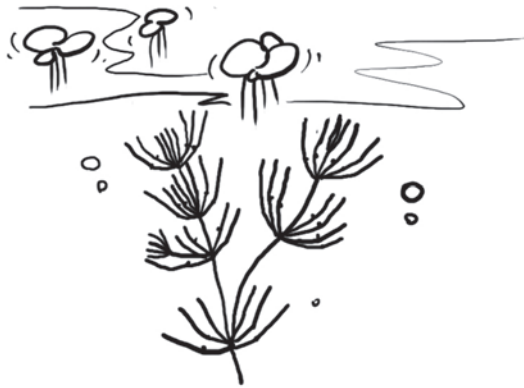
人肥える 田畑はやせて 虫は減り

静かだと思つてのぞけば田は騒がし

今日からは野の草だけでいけるかな

わが家もわが集落にもない「シヤジクモ」を見つけ、
この田とわが家の田の遠く離れし田の姿、
どちらへ向かえばよいのだろうか

無農薬収量少なく気分はなえる生きもの多く心はぬくい



生きものの語り俳句・川柳

― 柿畑編 ―

柿畑 子供にかえり 網を振る

網振って 園の未来を 頭に絵書く

柿畑 ミツバチ見つけ うれしいな

おけさ柿 生きものはぐくむ うまい柿

柿の虫調べてみたら ただの虫

柿畑 虫をさがして 童心に

柿くわぬ 虫もかくれる 柿畑

悩ましい おけさ柿の 多様性

カメムシの 発生予察すばらしい

おけさ柿 樹齡とともに うまくなる

トキがいた 羽茂の田んぼに トキがいた

生きもの語り俳句・川柳

― 佐渡 Kids 生きもの調査隊編 ―

カエルさん 卵を産んでふえていく

江づくりは泥が重くてあげにくい

稲育つ トキの命も 田んぼから

稲育つ 泥の中から こんにちは

初夏の風 緑豊かな トキの島

佐渡ヶ島 緑豊かな トキの郷

トキの島 緑豊かな 田からも

いろいろと 季節が変わる 田んぼだよ

害虫もトキにとっては大切だ

へらそうよ生きもののため農薬を

トキ育つそれならお米も安心だ

稲育つトキの命も田んぼから

トキを守るとみんな豊かに



生きものの語り俳句・川柳 ― 草地編 ―

牧草地 牛をそだてて 虫もかう

携帯は もちろん忘れ 網ふりだ

虫並べ 待ちに待ったこの日だよ

草地、柿支援センター泣かせの 佐渡ヶ島

草の虫何べん見ても草の虫

台風一過せみの声

草のムシカメムシ甲虫ハチとハエ

草地にてスウィーピングでスーイスイ

カメムシも種類が多くて困っちゃう



亀ン蟲ライダー

大の大人が虫捕りに夢中になるんだ不思議だね

トキだけじゃないんだ佐渡の宝物

熱中症気にせず子供に戻る夏

名を聞くと駆除に少々気がひける

蜂とった武勇語ったアブだった

俺の虫勝手に名前調べるな

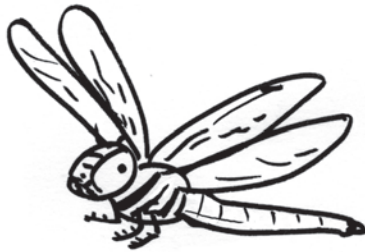
網振るい草地かけたら虫の息

網を振る心は童虫を取る

異常気象真夏の空にアキアカネ

虫の息聞こえてきそう研修会

ケータイが鳴った瞬間虫発見



捕まえたと思った瞬間逃げられる

虫の名を知らないくせに考える

虫たちがうまがる草はおいしいよ

この調査いかにつなげる島づくり

虫探し出口も探し日が暮れる

俗世界しばし忘れて虫集め

6月の晴れたある日、草刈を終えて草刈り跡をポーと眺めていると、アユとりを済ませて帰ろうとする知人に会った。収穫した魚を得意そうに見せてくれました。カゴを覗くとアユがたくさんいる。この時期にしては形のいいものもいて、大漁だったのだとその腕に感心したものだ。

さらに、きれいな色の魚が目に入った。ヤマメだった。長江川の中下流域にヤマメがいたことに驚きを感じた。長江川はまだまだ清流の魚を育てている川でいてくれたことに感謝せずにはいられなかった。

自分は草刈りでアユどころではないと心の片隅ではアユとりの人をうらむこともあるが、ヤマメを見せてもらって、つり人に感謝の気持ちも現れた。

人の心の複雑さを思いつつ。

『自然』

「ずっと家に居ないで外で遊ばない」昔はよく言われたものだ。しかし、私はよくこう言って返していた。「だって、遊ぶところがないんだもん」

住宅街で空地もなく、しかし、田舎だったので家の間に挟まれた田んぼが道沿いに時々みえる。そんなところで私は育った。

仕方なく外に出ると、そういう田んぼの横の水路を眺めて、時間をつぶしたことがしばしばあった。三面張りの狭い通路も、時期になれば水が溢れるほど流れ、ゴミも押し流し、割ときれいなものだった。ずっと見ていると、時々何かが泳いでいる姿が見えた。川から用水を引いているのか、小魚が結構泳いでいたりした。

周りに自然もない環境で暮らしていた私のなかでは、こんな人工物の塊である通路も、自然に流れる川と同じものだった。顔を上げて田んぼを見れば、稲の上をバツタやトンボ、ツバメが飛んでいたりして、そこは森のなかと同じであった。

しばらくして、水の入り具合を見にきたのか、田んぼの持ち主らしいおじさんが話しかけてきた。「坊主、そんなところを見ても何もないだろう、どうしたんだ？」私は答えた。「いっぱい居るよ。おじさんこそ、良く見てみなよ」私とおじさんはまたしばらく田んぼを眺めた。

私が見ている田んぼは子供のときより楽しい。いろんな生きものが生きているから。

生きもの達からの祝辞

今日の天気は梅雨空のどんよりとした今にも雨が降りそうな空だ。

朝方、柿の手入れをしていると仲間から「うちの田んぼに朱鷺が来ているぞ！」と携帯電話が鳴った。急いでカメラを手に取り、望遠レンズと交換してトラックに乗り込み、田んぼに急いだ。

朱鷺を驚かせまいと、草刈をしていない川の堤防沿いの道をゆっくり見える位置まで走らせ、カメラを覗いた。「朱鷺だ！」と小さく心の中で叫び、シャッターを何度も押した。

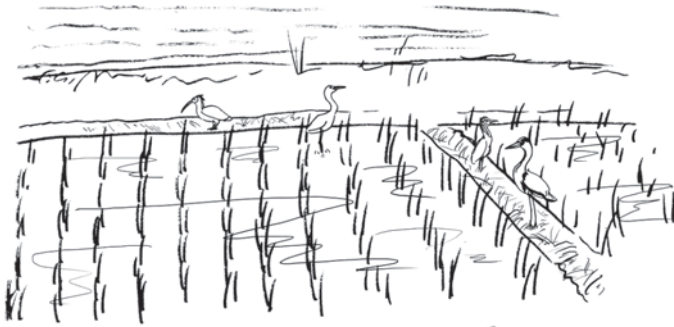
この田んぼ、効率と低コストを求めて造成した大区画水田であり、電気がないと米は作れないから水田ではなく「電田」と最近呼ん

でいる田んぼである。

この電田を10年前から「ふゆみずたんぼ」にし、無農薬で米を作り、トキ認証米が始まると「江」を付けたりして生きものが棲みやすい環境を提供してきたつもりであるが、放鳥後、朱鷺は普通の田んぼに降りることが多く、この田んぼには1度も降りたことはない。

周りからは、「朱鷺米を作らんでも、うちの田んぼにはようやって来る、お前の田んぼはご苦労してもトキは来んねかさ」などと言われ、ちょっと悔しい気もしたが、無数の元気に泳ぐおたまじゃくしに勇気づけられてきた。

今年は、本当に蛙が多い！山赤蛙のお玉杓子と尻尾をもった子蛙、そして大人になった蛙が文字どおり、うじゃ、うじゃと



田んぼを飛び回る。お玉は、江の中で田んぼの河豚というべきか、水面でぶかぶかと口を開け呼吸をしているのかと思えばよく見ると、微塵子を食べている。実ににぎやかで見ている面白。

朱鷺以外にも来ている鳥がいる、朱鷺の横には中鷺、その横には亜麻鷺、その隣は五位鷺と整然と間隔をとり並んでいる。奇妙な構図だとファインダー越しから見ると風景。携帯電話の目付は6月11日。「あ！今日は佐渡が世界農業遺産に認定される日だ」、まさかお前たちお祝いに来たのか？朱鷺が首を縦に振ったように見えた。私は「ありがとな」とつぶやいた。

きつと、今秋には無数の赤蜻蛉が稲穂の上を飛んでいることだろう。



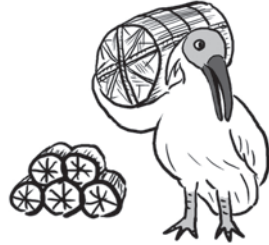
佐渡ヶ島

みんなで支える

トキの郷

(二〇一)

準グランプリ作品)



田の虫と

一緒に作るよ

佐渡の米

(二〇一)

準グランプリ作品)



後記

トキが舞う佐渡で

田んぼの生きもの調査が大きな広がりを見せています。佐渡の百姓は田んぼが単なる食糧生産（米づくり）の場でなく、たくさんの生きものたちが生まれ、共存する場所であることをあらためて実感しています。

思わずにつこり、時には考えさせられるこれらの作品たちは、生きもの調査を通じて表現された素直な感情の芽生えなのです。

——もっと美味しく、もっと優しく、いつも一緒に

2012年3月

発行：佐渡生きもの語り研究所

佐渡市新穂潟上

トキ交流会館内

TEL 0259-2212658